

京都市学校教育の重視する視点
「主体性」と「社会性」の育成
「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める

よんきゅう絆プロジェクト 小中一貫教育目標
未来を拓き しなやかに生きる子どもの育成

学校教育目標
「ともに学び 自ら考え行動する 朱六の子ども」～共感・協働・自己実現 笑顔が集まる学校～

子どもたちの
笑顔のために

子どもの実態

地域・保護者のようす

子どもの笑顔

- ・目標に向かって頑張れる **自律**
- ・友達と仲良くし、助け合える **協働**
- ・きまりやルールを守って楽しく遊ぶことができる。 **規則の尊重**
- ・生きている喜びを味わうことができる。 **生命の尊さ**
- ・学校に誇りをもてる **伝統と文化の尊重**

保護者・地域の笑顔

- ・子どもの様子を知り、見守り、励まし、寄り添う。
- ・学校への信頼感を醸成する。
⇒課題の引継を確実に！
- ・地域の一員として、子どもの社会生活の基盤を養う。

《めざす子ども像》

資質・能力:「GIGA 端末の活用」「発信力の向上」

- ・意欲的に学びに向かう子
- ・気持ちよくあいさつのできる子
- ・仲間のことを思いやれる子
- ・自分の思いを発出し、相手の思いを受け止めらる子
- ・仲間と元気に体を動かして活動する子 (より具体的な姿をめざす)

☆学校経営方針

【学校経営にチーム朱六の力を】

1. 学校が子どもにとっての安心できる居場所とするため、一人ひとりの子どもを徹底的に大切に認めることで、自己肯定感の高まりを目指す。
2. 教育目標の達成のため、PDCAを意識しながら、デジタルならではの強みを活用し、カリキュラムマネジメントの再構築に取り組む。
3. 基礎・基本の確実な定着を図り、社会の変化に対応できる「生きる力」を育むために、生徒指導の実践上の4つの視点を活用した教育活動を展開する。
4. 報告・連絡・相談を緊密に行い、協働性のある職場を作る
5. 教育者としての自覚をもち、常に自己研鑽に努める。
6. 保幼小・小中など校種間連携・接続を推進する。
7. 家庭・地域・外部団体等との連携を深め、学校からの情報発信を行う。

教職員の笑顔

- ・学校での子どもの居場所つくりを進める。
- ・子ども一人ひとりを徹底的に理解して、子どものよさを伸ばす
- ・「困り」を抱える子ども一人ひとりに対する支援を行う。
- ・教職員がチームとして取り組む
＜何でも話せる職員室＞
- ・教職員が自ら学ぶ姿勢をもつ
- ・使命感をもち、責任を果たす
- ・よんきゅう絆プロジェクトの推進
- ・学校に誇りをもつ

教職員が心がけること

学びづくり

- ICTの有効活用
 - ・主体的・対話的で深い学び
 - ・発信力の育成
- 問題解決的な学習の工夫・充実
 - ・学習のめあて、見通し、ふりかえりを明確にし、思考力・判断力・表現力を育む授業の工夫
- 家庭学習の充実(自学自習の定着)
- 学力向上の取組の推進
 - ・学力向上プランの推進・PDCAサイクルでの検証・低位群への支援
- 支援の必要な子どもへの指導の充実
 - ・個に応じた計画的な指導

心づくり

- 豊かな心を育む教育の推進
 - ・道徳教育の充実(しなやかな道徳)
- 豊かな感性・情操を育む教育の充実
 - ・体験を通して、共感すること、楽しさや美しさ味わう活動の充実
- 自己指導能力の育成(4つの視点)
 - ・授業での学びのルールづくり
 - ・きまりやルールの大切さの自覚
 - ・基本的生活習慣の徹底
- 人権を尊重した教育の推進
 - ・多様な他者と共に生き、支え合い高めあう学級集団の充実

体づくり

- 体力の向上に向けた取組
 - ・取り組むべき課題の焦点化
 - ・外遊びや集団遊びの推奨
- 自ら考える保健教育の充実
 - ・自分の体や、自身の安全に対する関心を高める
- 安全・防災教育の充実
 - ・生活安全・交通安全・災害安全
 - ・適切に判断・行動する力の育成
 - ・危機管理マニュアルの充実
- 食に関する指導の推進
 - ・望ましい食習慣の確立

環境づくり

- 家庭や地域・学校との協働
 - ・相互の役割を明確にした教育の推進～学校運営協議会やPTA～
- 学校美化の推進
 - ・清潔で潤いのある環境づくり
 - ・興味・関心や学習意欲が高まる掲示物の充実
- 安全な学校づくりの推進
 - ・安全で学びやすい環境整備
- 学校の応援団の充実
 - ・組織の活性化とねらいに基づく人材活用(地域の先生・ボランティア)
- 環境のUD化(特に教室)